

風 話 鈴 香

発行所

尼崎市小中島 1・1・1 8

社会福祉法人

阪神共同福祉会 園田苑

Tel.06-6493-3731

発行責任者

理事長 中村 大蔵

私 達 の 目指すもの

- 一、 地域に開かれた施設
- 二、 入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！
- 三、 老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人 阪神共同福祉会

一九八八年一〇月一二日 小中島に園田苑が開設され、今年で二七年目。
かねてからの懸案であった新規事業が現実のものとなりました。
「小規模多機能居宅介護園田苑」と「デイサービスセンターZen（ぜん）」
がそれである。

園田苑の歩いて来た道、これから歩いて行く方向がしつかり見えてきた。

園田苑が歩いていく道

園田苑が始まった二六年前。
まだ介護は措置の時代だった。デイサ
ービスの車が家の前に止まるのは恥ず
かしいからむこうに止めてと言われた
こともあった。

それでもおおらかな時代だった。五〇
名の入居者全員と保健師、ボランティ
アと四〇分ほどかけて歩いて近松公園
に行き、体操をし、厨房が作ったお弁
当を食べて帰ってきたりしたこともた
びあった。

理事長（前苑長）は、入居者を連れ須
磨の海岸に海水浴に連れ出した。

尼崎市の市民プールで赤い水着を着
た入居者と泳いだことも懐かしい。

介護保険が始まり、一億総介護の時代
となったものの、それは名ばかりで、内
実多くの問題は山積みされたままです。

四月には、制度改正で、財政的にます
ます厳しい時代になります。

しかし、そんな中でも社会福祉法人阪
神共同福祉会としての役割を見極めな
がら、色々な新しい事業にも取り組ん
できました。

時代は在宅介護へ。包括的な支援が紙
面を踊り、なんでもかんでも包括支援セ
ンターに丸投げされ、ただただ表面的な
支援しかできていない現実心痛む。

地域の人が、この地域で生活し、生を
全うするために、色々な選択肢ができる
ことが必要だと実感している。
職員たちで、今後の園田苑を語り合っ
たとき、「泊り」がしたいと言いつつ、
小規模多機能居宅介護という形が見
えていた。

善法寺の地に：

そんな時、園田苑から歩いて五分の善
法寺の地にあるその場所との出会いが
あった。

善法寺は、園田苑のある小中島のすぐ
隣にある地域で、園田苑からすれば、ま
さに地元であるにもかかわらず、行政が
同じ地元である小中島に比べ浅かった。
だから三つめのデイサービスの名前
を「Zen ぜん」とした。善法寺のへ
ぜんである。そしてへえんである。

人との出会いが縁ならば、場所との出
会いも縁。

小規模多機能居宅介護では、最後まで
家でいたいという地域の人たちの想い
に真摯に向き合います。時には泊まるこ
とができ、必要に応じて家に行き援助を
行い、さびしくなったら行ける処、無理
を言える、無理がきける関係を目指しま
す。

三つ目のデイサービスセンターZenでは、
今までのデイとは異なる生活リハビリに着目
し、ご自分が家で生活できるために、なんでも
職員がしてしまわない、せかさない、できるこ
とは自分でする。食事だって、ダイルームから
厨房までも歩いて行き、バイキング方式で、自
分が食べたい物を自分が食べたい分だけ取っ
ていく。あせらない、せかさない。
食べ終わったら、また、食器を厨房まで持っ
ていき、食べた感想を伝えてもらう。だから、
ゆっくりと時間が流れる。そんなデイサービス
を目指していきます。

一日のメニュー（お風呂はいつ入る、散歩、
脳トレ、ゆっくりする、昼寝等）も自分のペ
ースで考えるそんなデイサービスです。

それぞれのデイサービスがそれぞれの特徴
に特化していくことで、利用者が選択する目が
研ぎ澄まされていくことになっていけばと思
います。

日曜日には、地域の皆さんに自由に入出入りし
て頂けるようにしていきたいと思っています。

この場所が園田苑
だけでなく、地域の
皆さんの心のより
処、地域の産物にな
ってほしいと心から
思っています。



老人を施設に閉じ込めず

地域、在宅での生活を

理事長 中村大蔵

社会福祉法人阪神共同福祉会「園田苑」は、
地域住民の共同利用施設であり、法人役員や職
員の私的な所有物ではない。

園田苑は、その法人設立母体「阪神医療生活
協同組合」が、組合員や地域住民から、何の代
償も求めない寄付金を約三千万円いただいて、
日の目をみた。今、そのことを知っている人は
とても少なくなっているが、忘れてはならない
非常に大切なことである。このことが園田苑の
基礎を作ったといっても過言ではない。

寄付金のお願いに毎日曜日、地域を歩いたこ
とは、懐かしい思い出であるとともに、お互い
「無理の言える関係づくり」であった。

尼崎で二番目の特別養護老人ホームとしての
話題性もあったが、どのような施設を作るのか
といった、夢を語り合うことでもあった。

施設は老人にとって「終の住み処（すみか）」
ではなく、再び在宅へ復帰することにつながる
ものでありたいと、今から思えば青臭い書生論
も交わしたものである。

この度、地域に小規模多機能施設を開設する
ことになって、三〇年前のことを思い出した。
小規模多機能はあくまでも在宅生活支援であ
り、小規模特養ではない。自宅から通い、必要
に応じて泊り、そしてしばしば訪問する。
老人を施設に囲い込むのではなく、老人の地
域での生活をより豊かにすることが目的である。

支援バザーの報告

新規事業オープンを記念して

善法寺保育園で支援バザー開催

二月十五日、善法寺保育園で新規事業を記念して、バザーを開催しました。バザー用品は、情報を聞きつけて下さった地域の方が、沢山持ち込んで下さり、数が数えられないほど集まりました。食器やバスタオル、おもちゃなどの雑貨、店構えとしては、十分の品揃えでした。開催時は、二月。来て下さった方が、寒いように、おでん、豚汁、炊き込みご飯、餅つき、ぜんざい、ケーキと温かい食べ物からスイーツまで、各部署で準備しました。

冬といえば大根。おでんや漬け物に使用する野菜は、園田苑の職員が淡路島の明石農園に行き、実際に獲ってきたものです。毎年、明石農園の大根は軟らかく、煮ものをしても直ぐに味がしみ込み、優しい甘さがあります。そんな、こだわりの食材を使って、びつくりするぐらいの量を調理しました。

当日の朝、集まった物を車に積み、いざ保育園へ。

開店準備を始めている最中から、さっそく品物を見にお客さんが来店し、一気に盛り上がりムードになりました。当日は、園田苑の各部署の職員をはじめ、阪神共同福祉会四保育園の職員の皆さん、ボランティア園の皆さんがそれぞれ売り子として、ご協力くださいました。

雪が舞い始めた午後

バザーが始まり、餅つきがスタート。会場は、一気に活気づきました。つきたてのお餅は、さつそくぜんざいに。バザーの売れ行きは好調でバスタオルが大人気でした。十二時を過ぎた頃から、雪がちらほらと舞い始める中、買いに来て下さった皆さん、買い物が落ち着くと、温かい食べ物を食べて、ワイワイと雪にも負けない賑やかな雰囲気でした。

そして、実行委員の私は、地域包括の宇野さんに車を出してもらい、周囲の地域に拡声器を持って、多くの方がバザーに来て頂けるようにPRを行いました。マイクを持って、こんなことをするのは始めてでしたが、意外と恥ずかしくないものでした。(近所の皆さん、騒がしくし



て申し訳ありませんでした。) 沢山の方に、ご来店、ご協力下さり、予定の時間を少し超えて、バザーが終了しました。

支援バザーを

通して思うこ

と

今回のバザーでは、地域の皆さんに新規事業開設のご報告と、新規事業デイサービスZenが営業していない日に、空いた場所を地域の方にも使っていただけたよ

うにとのPRを兼ねていました。

地域の方から見て、介護サービスをしている所は、入りにくい、中でどんなことをしているのか分からないというような事業所だけにはしたくないという思いです。

地域の方の会合や稽古ごとに気軽に使ってもらえる場所になったら良いなと思っています。また、高齢の方が立ち寄れる喫茶が欲しい。と、夢を語ると尽きませんが、これから地域でしてみたいことは沢山あるのです。地域と一体の事業とするためにも、これから私たちが、地域に貢献できるよう努力を惜しまない所存です。

皆様、有難うございました

バザーで、皆様からご支援頂いた金額は

九五一〇二円です。

これらの資金は、地域交流スペースとして活動するときの運営費として、使わせて頂きます。ご協力頂いた皆様、有難うございました。

後記

今回のバザーは、当初、小中島公園で催す予定でした。急遽、開催場所が変更になってしまったこと、ご迷惑をおかけして、本当に申し訳ありませんでした。この場を借りて、お詫び申し上げます。

今回のバザー準備や手続きを通じて、社会福祉法人とは何なのかを考えさせられる良い勉強になりました。有限会社や飲食業界からの介護事業参入など、多彩な介護サービスが溢れかえっている昨今です。介護サービスを利用される高齢者にとっては、選択肢が増えて、かつ介護サービス側も競争し合い、サービスの質が向上し良いことかもしれません。社会福祉法人は、介護サービス業者と同じく肩を並べているだけの存在なのだろうか。地域に社会福祉法人が存在する意味が不明確になっていては、社会や行政からも必要とされないかもしれない。

今後、社会福祉法人がどう在るべきか、若輩ながら、勉強していきたいと思っています。

(小規模多機能居宅介護 園田苑

管理者 秀石 直美)



デイサービスセンター Zen

小規模多機能型居宅介護 園田苑

内覧会を行いました！！

内覧会を行いました。

二〇一五年二月二十八日、三月一日の両日、デイサービスセンター Zen（ぜん）、小規模多機能型居宅介護 園田苑の内覧会を十一時～十四時の間で行いました。二日間でおよそ百二十名の方が足を運んで下さいました。

昼食は、デイサービスセンター Zen が行うバイキング形式で行われました。職員もバイキング形式の食事提供方法に不慣れで至らないところもあり、つい「入れましようか？」「私が持ちます。」等手を出しすぎが発覚。職員の意識改革が課題であることが分かりました。

参加者の方々からは、とても美味しいと好評を頂きました。

食事前、食後に小規模多機能型居宅介護の部屋を見学された方からは、とてもきれいで、泊まりたい、部屋が名城の名前で素敵などお褒めの言葉をいただきました。

他には、こういった人が利用できるのか、利用料金はいくらなのかなどの質問があり、担当者による個々へのZen、小規模の事業内容の説明を行いました。

今回、新しい事業を行うことで準備も大変でしたが、職員一同、一丸となって頑張りました。

今後、この新規事業が地域の方々に「できて良かった、あつて良かった」と思っていただけよう精進していきたいと思えます。

二日目の三月一日は、雨天で足元も悪いく中ではありましたが、多数のご参加いただきありがとうございます。

（デイサービスセンターZen

管理者 西井 明夫）



